

2013年11月29日 全5頁

Indicators Update

10月鉱工業生産

コンセンサスからは下振れしたが、増加基調継続

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2013年10月の生産指数は、前月比+0.5%と2ヶ月連続の上昇となった。市場コンセンサス（同+2.0%）からは下振れしたものの、生産は増加基調にあるという判断に変更はなく、先行きについても引き続き増加傾向が続く見込みであることから、過度に悲観視すべき内容ではない。
- 10月の生産を業種別に見ると、全15業種中、9業種が前月から上昇、6業種が低下となった。上昇した業種を見ると、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、プラスチック製品工業の上昇が生産全体を押し上げた。
- 製造工業生産予測調査では、2013年11月の生産計画は前月比+0.9%、12月は同+2.1%となった。11月については、このところ高めの生産計画が続いているはん用・生産用・業務用機械工業が増産を見込んでいることに加え、鉄鋼業、化学工業の増加が全体を押し上げる見通し。12月については、素材、加工を問わず広い業種で増産を見込んでおり、全般的に生産の拡大基調が続く見通しとなっている。
- 先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと見込んでいる。2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、耐久財を中心に個人消費が年度末にかけて加速する公算が大きいこと、公共投資が引き続き高水準で推移するとみられることから、内需の増加が生産を押し上げるだろう。また、生産と連動性が高い輸出数量は、アジア向けの減少等によりこのところ弱含んでいるが、円安の効果や米国を中心とした海外の景気拡大によって再び増加傾向に復する見込みであり、生産を牽引すると見込んでいる。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年									
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
鉱工業生産	▲0.6	0.9	0.1	0.9	1.9	▲3.1	3.4	▲0.9	1.3	0.5
コンセンサス										2.0
DIR予想										0.7
生産者出荷	1.2	1.8	▲0.8	▲1.4	1.0	▲3.2	2.0	▲0.1	1.5	1.8
生産者在庫	▲1.6	▲1.2	▲0.7	0.8	▲0.4	0.0	1.6	▲0.2	▲0.2	▲0.5
生産者在庫率	▲3.8	▲2.6	2.3	▲5.1	▲2.1	5.9	▲0.5	1.8	▲2.1	▲3.7

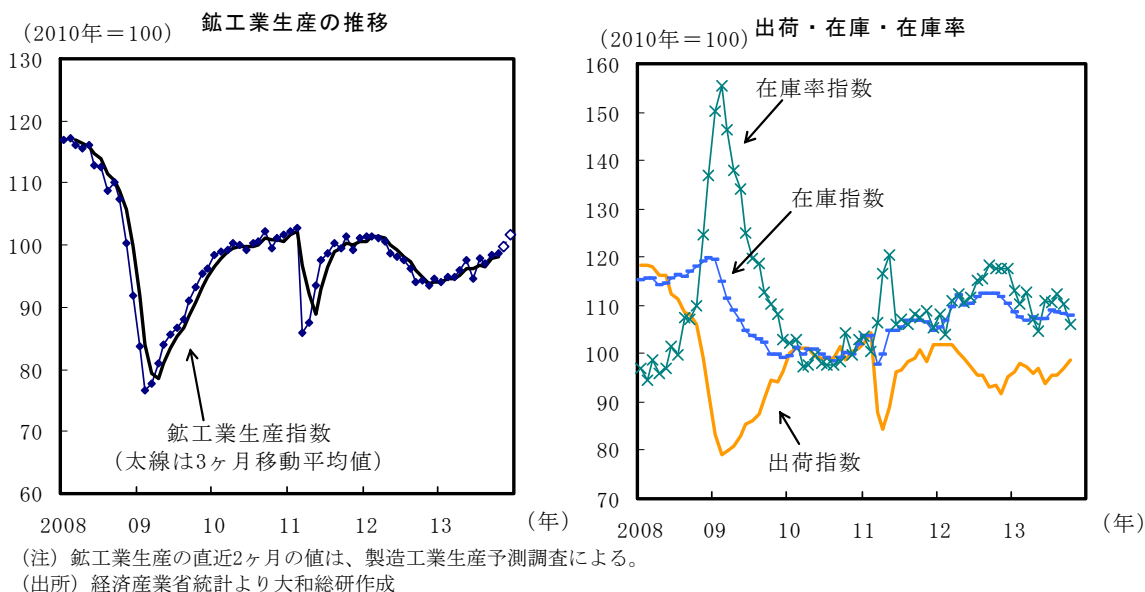
（注）コンセンサスはBloomberg。

（出所）経済産業省、Bloombergより大和総研作成

10月の生産指数は2ヶ月連続の上昇

2013年10月の生産指数は、前月比+0.5%と2ヶ月連続の上昇となった。市場コンセンサス(同+2.0%)からは下振れしたものの、生産は増加基調にあるという判断に変更はなく、先行きについても引き続き増加傾向が続く見込みであることから、過度に悲観視すべき内容ではない。出荷指数は前月比+1.8%と2ヶ月連続の上昇となり、在庫指数は同▲0.5%と3ヶ月連続の低下となったことから、在庫率指数は同▲3.7%の低下となった。

生産・出荷・在庫・在庫率の推移



はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業が生産を押し上げ

10月の生産を業種別に見ると、全15業種中、9業種が前月から上昇、6業種が低下となった。上昇した業種を見ると、はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業、プラスチック製品工業の上昇が生産全体を押し上げた。はん用・生産用・業務用機械工業、電気機械工業の増加は、前月の製造工業生産予測調査に沿った内容だが、いずれも製造工業生産予測調査で見込まれていたものより小幅な増加となっており、生産が市場予想から下振れする要因となった。

はん用・生産用・業務用機械工業は前月比+7.4%と3ヶ月ぶりの増加となった。これまで減少傾向が続いてきた「半導体製造装置」が前月比+46.9%と、大幅に増加したことが全体を大きく押し上げた。電気機械工業は前月比+5.4%と、2ヶ月ぶりの増加となった。「セパレート型エアコン」が同+15.8%と増加したことが主な押し上げ要因。「セパレート型エアコン」の生産は2013年に入ってから増加傾向が続いているが、これは堅調な住宅投資が背景にあるとみられる。プラスチック製品工業は、前月比+2.3%と、2ヶ月連続増加となった。薄型テレビやスマートフォンの生産に使われる「プラスチック製フィルム・シート」の増加が寄与している。

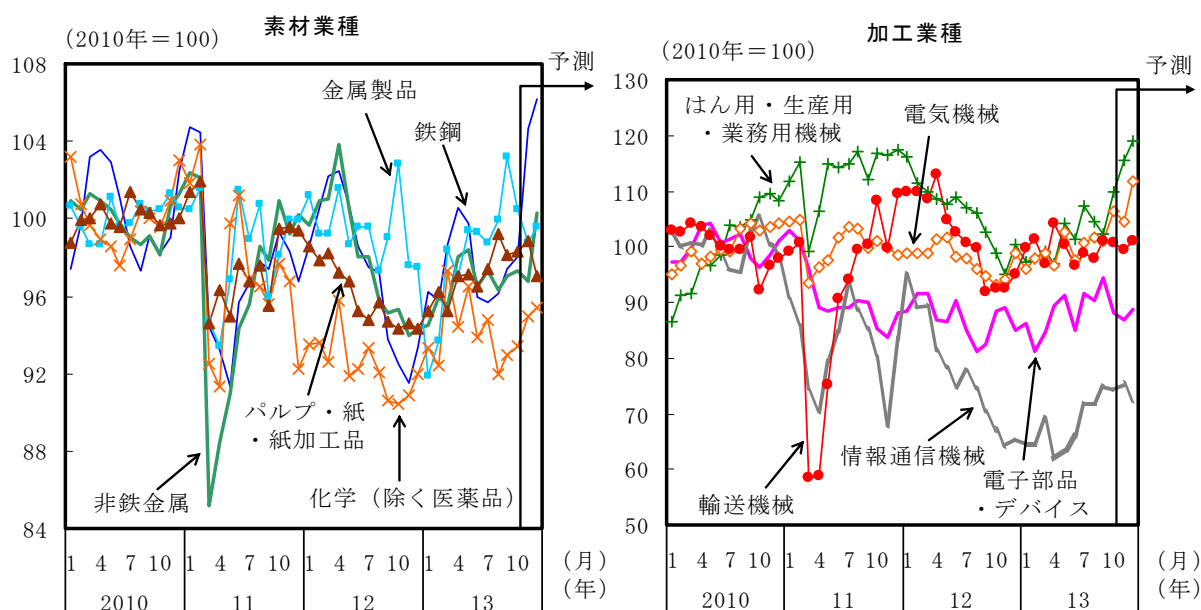
一方、10月に低下した業種に関して見ると、電子部品・デバイス工業(前月比▲6.8%)は、「コネクタ」が大幅に減少したことに加え、前月増加していたスマートフォン・タブレット端末

関連部材である、「アクティブ型液晶素子（中・小型）」、「モス型半導体集積回路（メモリ）」が減少したことで押し下げられた。金属製品工業（同▲2.6%）については振れの大きい「橋りょう」の減少が主な押し下げ要因となっている。輸送機械工業（同▲0.4%）は、「小型乗用車」の減少を主因に2ヶ月ぶりの減少となった。

製造工業生産予測調査では、広い業種で増加基調を見込む

製造工業生産予測調査では、2013年11月の生産計画は前月比+0.9%、12月は同+2.1%となった。11月については、このところ高めの生産計画が続いているはん用・生産用・業務用機械工業（前月比+5.3%）が増産を見込んでいることに加え、鉄鋼業（同+6.8%）、化学工業（同+1.7%）の増加が全体を押し上げる見通し。12月については、情報通信機械工業（同▲3.9%）、紙・パルプ工業（同▲1.9%）では減産を見込むものの、その他の業種については、素材、加工を問わず広い業種で増産を見込んでおり、全般的に生産の拡大基調が続く見通しとなっている。

主要業種の生産推移

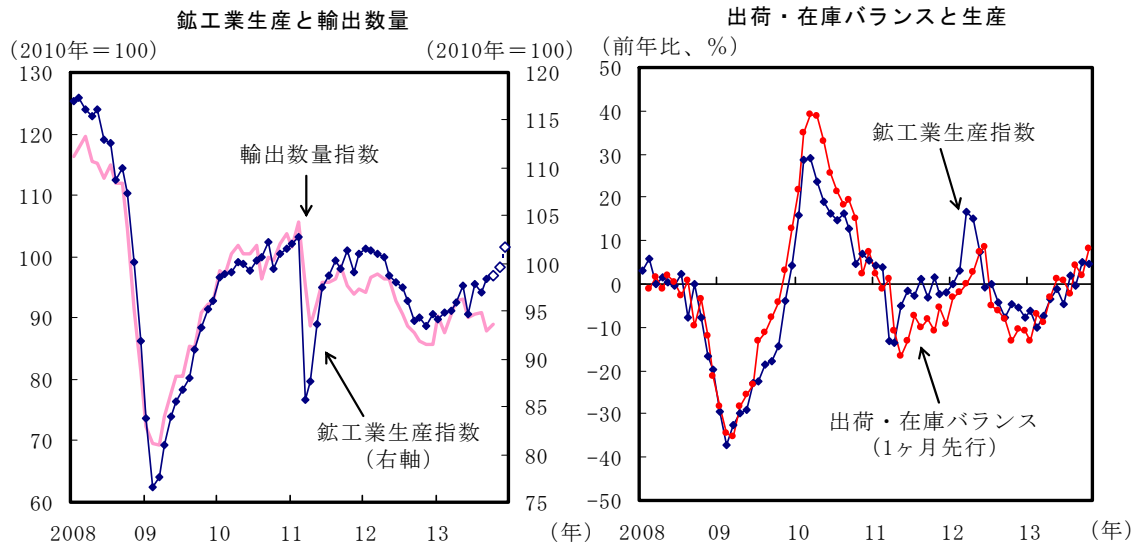


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

年度末に向けては内需の加速が生産を牽引

先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと見込んでいる。2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、耐久財を中心に個人消費が年度末にかけて加速する公算が大きいこと、公共投資が引き続き高水準で推移するとみられることから、内需の増加が生産を押し上げるだろう。また、生産と連動性が高い輸出数量は、アジア向けの減少等によりこのところ弱含んでいるが、円安の効果や米国を中心とした海外の景気拡大によって再び増加傾向に復する見込みであり、生産を牽引すると見込んでいる。

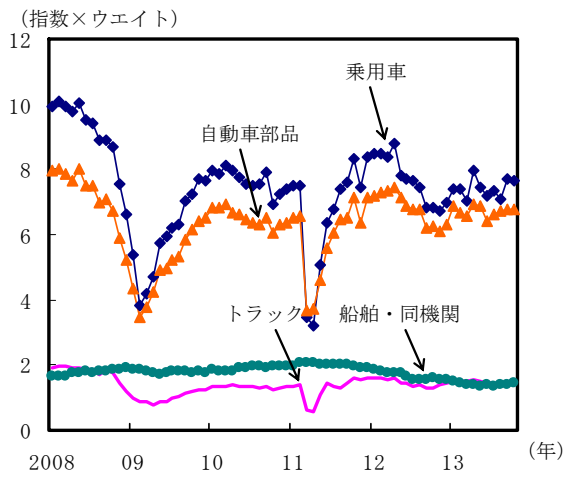
輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



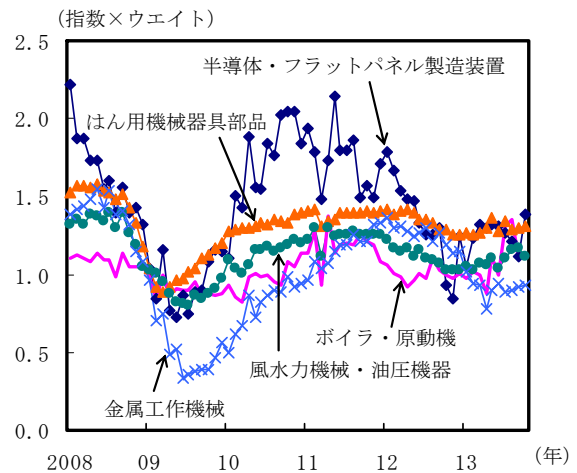
(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。
 (出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

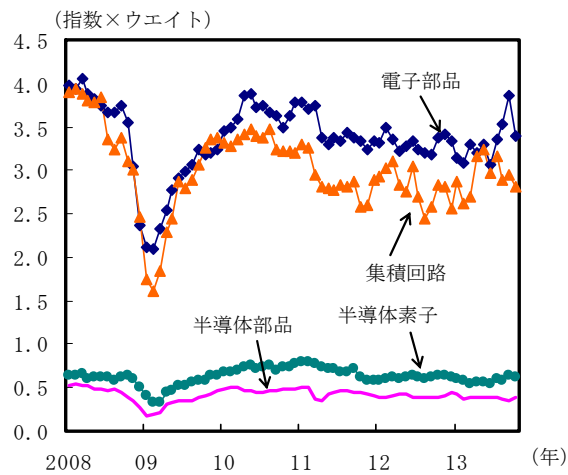
輸送用機械



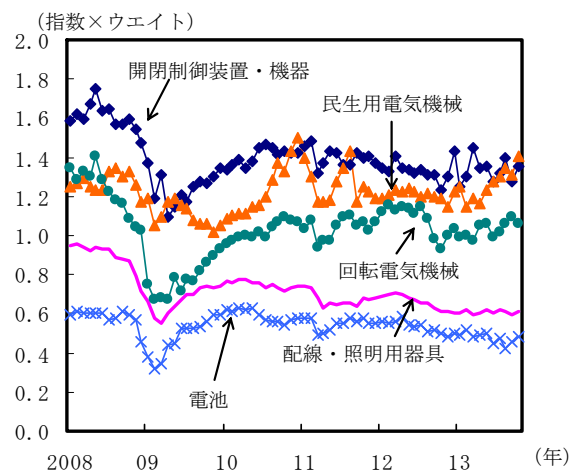
はん用・生産用・業務用機械



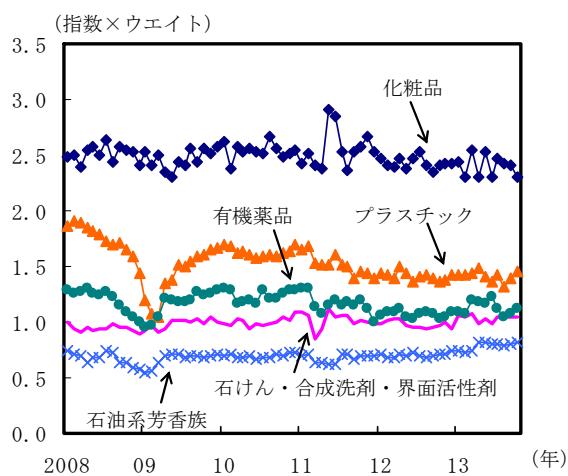
電子部品・デバイス



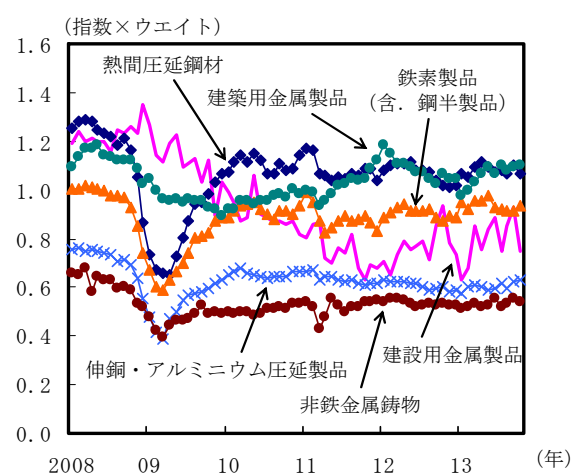
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成